

編集ノート

2011年3月の東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。「李伯元遺稿」は、本号をもって連載を完了する。少しでも説明しよう。元本は、李錫奇『南亭回憶録』上下冊（私家版1998）だ。ご覧のように、すべてが手書きのまま複写印刷されている。上冊は錫奇の筆になる李伯元年表、伝略、および論評と称する短文多数で構成される。下冊には、李伯元の文章（主として『遊戯報』掲載のもの）、その他関連する文章を収録する。その全体をながめると、出版を予定していた原稿だとわかる。しかし、刊行されることはなかった。「文化大革命」をはさんだ時期だったからだろう。その後、原稿は親族が保管していた。1960年代の原稿を、1998年にそのまま複写刊行したということらしい。出版されるまでの約30年間に、李伯元研究は進んだ部分はある。だが、利用できる資料となると、ものによっては、あるいは以前の方が豊富だったかもしれない。本誌に転載したのは、今

まで知られていない伯元の文章だ。それらを見ると、1960年代以前の中国では、清末の新聞などを見ることのできる可能性は今よりもあったということか。現在、『遊戯報』は、マイクロフィルムになった少数でしかない。それだけに、李錫奇が収集し筆写した文章は貴重な資料である。『南亭回憶録』そのものが少数刊行の私家版だ。学術的価値があると考えている。前号本欄で触れた「清末民初小説目録」は、第4版としてCD-ROM（1枚 非賣品）で発行した。新編増補版〔第3版〕が2002年の刊行だった。増補訂正という内容、電腦のソフトウェアという道具の両方が整うまでに9年が経過したということができる。編集刊行の裏話については、第4版問答（『清末小説から』第102、103号）をご覧ください。清末小説研究会ウェブサイト<http://www.biwa.ne.jp/~tarumot>において公開している。表示した刊行年月日よりも早

清 末 小 説 第34号

定 価 3,150円(本体3,000円)

発 行 2011年12月1日

発行兼編集人 樽本照雄

発行所 清末小説研究会

〒520-0806 JAPAN 滋賀県大津市打出浜

8番4-202 樽本方

郵便振替 00990-6-40475

<http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto>

印刷所 木村桂文社